

よかったですと思います。副委員長の奥さんは事情があって行かなかったんですが、彼は帰りの飛行機の中で5年後には絶対俺は嫁はん連れて行くよと云っていたので、はたから見ても奥さんが7人参加してくれたんですけれども雰囲気よかったんで、彼もそういう発言が出たんじゃないかとおもっています。やはり自分の活動特に外部ロータリーの交流というのは全然、家内に見せないのが当たり前で今回、外国のロータリアンと接触して非常に色んな広い意味のロータリーの活躍をちょっとは理解してくれたんじゃないかなと思っています。



成川委員長：そういうのをどんどん広めていく事ができたら、我々ロータリーの目標なんですね。ありがとうございます

打田 R C：解答というか返答にならないと思いますが、ご承知の通り私の所は例会は夜なんですね。7時から1時間という事で、私はたまたま先程も言った通り一年程前に自分の大学の同窓会があった時に、こういう形でこういうクラブに入ったんだと活動内容報告致しますと、夜に活動するなんてフクロウか僕ぐらいなもんでと、半分冗談、半分あたっているかなと苦笑いしてきたんですけれども、確かにメンバーの集まってくる色々な仕事の事情等から色々ないきさつがあつての夜と云う事での例会時間というのが確定したんじゃないかなと思うんですけれども、それはそれでメリットもあるわけなんですけれども、しかしその私に何人かのフクロウかとも発言した同級生からすれば、やはり一般の地域の方には私達の活動は全く見えていないなと云う事を思い知らされた一つの機会でもあったわけです。そういう意味で先程から言ってますロータリーファミリーの活動というよりも、私達の課題というか目的はむしろ昼間の活動も取り入れながら地域のボランティア活動、若い人

たちの活動もっと見える形で、活動状況を一般の方に見える形で動きをするというのが、私たちの最大の課題だなと思います。ファミリーはよそとの比較と云うのは難しいですけども、割りに皆さん家族の理解はえられておって、退会するというメンバーはだいたい基本人数が少ないというのもありますけれども、そういう動きがないと・・・辞めて行きたいという動きはない中で・・・委員会としての方向的には、はずかしいんですけども、むしろ私達はファミリー活動ロータリーファミリーよりも地域を巻き込んだPRを兼ねた自立活動というのが私達の課題かなというような事を感じております。



成川委員長：地域の人を巻き込むというのがロータリーファミリーですからね。ただまあ 見えるか見えないかはその辺はなんですけれども先程言いましたけど、夜の例会ただ夜に活動するというんじゃなく、例会というのはやっぱり、そこでお互い情報交換して研鑽する場ですのでね。それは昼であろうが夜であろうが朝であろうがいいわけですね！ 目に見えないというのは、ライオンズみたいに団体に バァーっと、やるんじゃなくて皆さん方例えば、クラブなりにあるいは自分なりに活躍しているんですね。それがロータリー職業奉仕にもなっているわけなんですよ。そういう風にお互い言って頂ければいいですね。よくやっていけると思いますんで・・・よろしくお願いします。

打田RC：ありがとうございます 私も まだまだ一年生でまわりは全部先輩ですので、打田RCはすごいという意味で・・・云っているのではないわけです。個人的な認識の浅さという事で一つご理解頂けたらと・・・

成川委員長：立派なロータリアンですね。色々吸収してください、ありがとうございました！ 高野山さんどうですか？



高野山 R C：実は恥ずかしいことなんですけれども、うちのクラブの副会長が退会になりまして、その退会者のことなんですけれども、僕が代理副会長にあがったんですけども退会した人に色んな話聞いてみますと、未だに気になるですね。ロータリーの事を「今どないなっとるんよ」とか「どんな仕事入ったか」とか聞きに来るんですよ。それに対して答えてるんですけどもう一回入ってくれるチャンスがあるんじゃないかなってよく此の頃思います以上です。

成川委員長：ご時間がせまってきましたんですけども、 岩出さんどうですか？

岩出 R C：ロータリーファミリーで見えてくるものって言いますと、今まで親睦活動委員会と云うのは周年家族例会と家族旅行 年二回位だったと思うんですよ。後は社会奉仕で先程言ったお手伝いをする時が、そのような形で家族の人がロータリーのそういう会へ出て来る機会が少ないと、だから今年はとにかく家族の人、子供さんからお孫さんから奥さんから、とにかく参加してもらおう格好でやってきまして今まで10人か15人ぐらいの奥様方が来ただけだったんですけども、それに出席してない奥様方が家族の皆さんが参加してくれましたんで・・・これがやはりロータリーの活動を理解、家族が皆、理解してくれるいい機会じゃないかなとだから、一年間を通して色んな何でも、ボーリングでも火星を見に行くとか、色んな格好でそれは親睦委員会の企画で何とかして家族に参加してもらおうという中で、ロータリーの奉仕活動というのが家族皆に理解もらえるんじゃないかなと思います。

成川委員長：ありがとうございます。もう時間がありませんので粉河さん方のはカットと云う事でいいですか？・・・
ありがとうございます。もうちょっと時間オーバーしておりますので1時間という短い時間の中で色々



とお話頂きました。まあその親睦活動、ちょっと先程も話の中で言いましたが、いわゆる一般的に云うと親睦ですね。何かするんやったら別にロータリー入らなくても出来るわけですよ。なんでロータリーで親睦が必要かと云う事を考えて欲しいんですよ。一般的には親睦活動というのは色々な家族会とか色々な旅行とか活動していますけれども、一番大事なのはやっぱり例会、例会は親睦活動の基本なんです。だから例会でいかに皆さんが友情を深め情報交換して自己研鑽の場であるという風に考えていくのが本来の親睦活動ファミリーである。それ以外に家族会なり旅行なり・それはあくまでも目的である手段であるという・・・目的はやはり、ロータリー活動をやっていく為の親睦であると云う事でございますので、その辺ちょっと時々、お間違いなされてる時もありますので、何でロータリーの親睦が大事かロータリーでなければ出来ない親睦ありますよね昔からそれをいわれています。先程も言ったように例会というのは、人生の道場である。そういうとらえ方で親睦活動をやっていきたいと思っております。私の時の会長さんがですね、その資料を持っておりますのでもしよければ、また見て頂ければありがたいと思います。もし必要であれば、私も持っておりますので、お渡しいたします。それでは時間5分オーバーしましたがけど ありがとうございます！

司 会：それでは 皆様、ありがとうございました。

終わりにあたりまして、この勉強会からお帰りになりましたら各クラブで今日のロータリーファミリー委員会について会員の皆

様にお伝えし、理解を深めて頂くと共に、メンバーのみのロータリー活動でなく、より幅の広いものにして頂けたらと存じます以上、つたない司会でしたがこれを持ちまして部門別会議を終わらせて頂きます。

今日は また 遠い所 お忙しい中 成川様 亀岡様 豊澤様 楠見様 そしてご参加の皆様ありがとうございました。



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2640

GROUP 4

**INTERCITY MEETING
IN
KOKAWA**



米山奨学委員長会議

リーダー

- ・ パストガバナー 堤 啓治
- ・ パストガバナー 前田 孝道
- ・ ガバナー補佐
- 地区米山記念奨学部門カウンセラー補佐 松下 光晴
- ・ 地区米山学友委員会委員長 田村 弘

参加者

- ・ 高野山RC 三星 博業
- ・ 打田RC 佐々木敏宏
- ・ 橋本 RC 曾和 正
- ・ 岩出RC 谷川 芳昭
- ・ 橋本紀の川
- ・ 粉河RC 野崎 丞
- RC 平越 孝平
- ・ 東岡 英好
- ・ 中谷 新治

司会 稲田 喜久（粉河RC）

司会： それでは、これより約 1 時間宜しくお願
致します。

松下： それでは私の方から米山奨学会についてご
説明をさせていただきます まず初めに 本日

大丸パストガバナー・河合委員長さんが所用の為、欠席しております事を報告
させていただきます。最初に今日 出席されて居られますパストガバナーさんより
米山奨学会についてのアドバイスをお願いします。



堤： それでは簡単に説明させていただきます。皆さん米山奨学金制度と言うのはご存じ
だと思いますが、選考委員会に私が出席をした時に感激した事がございます。
これを 1 点だけ申し上げたいと思います。中国から来た方で、たしか 35、6
才の女性で子供を本国に置いて来られた。そして彼女いわくには、私のお爺さ
んは京都大学を出ています。それでお爺さんから聞いている日本の事と今の現
状とは違うのではないかと言う事で、是非 私が日本に足を運んで自分の目で
確かめたい。という風な方が居られまして、そういう方が居るんだなと感激い
たしました。非常に日本独特の米山奨学制度が有効に働いている様に思います
今後とも御協力をお願いします。

前田： 私も米山奨学生の採用試験、それからいろいろな会合に出席させて頂いて思う
のですが、この米山と言う奨学制度は我が国独特の制度でございまして、この
奨学金を得て大学を卒業していった多くの方も居ますし、国内に留まって学友
として活躍して頂いている方も沢山ございます。一番多いのは韓国からの米山
奨学生です。それから台湾・中国、その他地域の方は 4 分の 1。韓国・台湾・
中国が 4 分の 1 ずつ占めております。今、堤さんのお話にもありましたが、米
山奨学生が日本で勉強して自国に帰ってからの日本への感情というものが、ど
うであろうかと言うと、いささか有り難かったと言う感謝だけの人とは限りま
せん。中には勉強するにはしたけれども「寂しかった」「嫌な思いもあった」

とか、そういう方も多いし、日本で勉強して来た事をひた隠しに隠している方もあると承っております。私は米山奨学生が胸を張って日本で勉強してきた事を堂々と言って頂きたいし、そういう風に日本の国内で日本人が暖かく米山奨学生を大事にして、そして それぞれの国へ帰してやって頂きたい。こういう事を切に思う次第で御座います。私の感想を終わらせて頂きたいと思います。

松下： それでは私の方から米山奨学会について流れや現在の状況を話させて頂きます。皆さんもご存じの通り、1952年に米山梅吉様の功績を讃えて出来ました基金。1967年に財団法人ロータリー米山記念奨学会として文部省からの認可を得て、現在までに96ヶ国から11540名余りの奨学生にロータリアンの寄付をもって支援をしてまいりました。現在は年間1000名の奨学生を受け入れております。昨今、留学生の方が急速に増えてまいりまして、日本全体で、テレビや新聞にも出ておりましたが、1983年中曽根内閣当時には1万人足らずでしたが歳月を経て12万人を突破しました。しかしその中には奨学生の優秀さ等に疑問を持つ奨学会もございます。非常に犯罪の面も増えてきているよ言う事で、米山奨学会からも私の方へいろんな要望も届いております。そういった中で奨学生は初めのうちは救貧型でしたが、現在は優秀な学生に支援するという方向に変わってまいりました。昨年度の寄付額でございますが、全国では16億円、前年度に比べて6%程下がっております。この事は1997年をピークと致しまして、経済情勢の厳しさと会員の減少によりまして年々下がって来ております。2640地区に於きましても年々減少傾向にあります。その中にありまして、昨年度は地区の目標であります二万円という目標を見事にクリアして頂きまして、2640地区の会員一人当たりの寄付額が21,544円と全国第3位という好成績を上げさせて頂いております。それから本年度で御座いますが、10月末の米山月間の終わった時点に於きまして、昨年度に比べて3.2%の減でございます。それから大きく変わってまいりましたのが、今まで米山功労者となりますと30万円の寄付をして頂いた方でした。そして準米山功労者・ファンドフェローが無くなりまして、10万円を寄付し



て頂けたら米山功労表彰と変わってまいりました。これはロータリー財団と歩調を合わせる様な形でございまして、こういう厳しい世相でございますので皆様方にご支援をして頂けるような方法をとったと思われます。それからもう1点、本年度より変わりました事は奨学生の採用でございます。昨年度までは寄付額の全国平均で割ったものが60%、地区内の大学に留学している米山奨学生の応募資格を持った学生の数で割ったものが40%で奨学生を決めておりました。それが寄付金の多い地区に多くの留学生を割り当てようという方向に変わってまいりました。昨年度2640地区では、全国約1000名の中で31名の割当枠がございまして、継続につきましては12名で御座いましたので19名の新規採用して、本年度 皆様、特にこの4組には3クラブ、橋本RC・高野山RC・粉河RCさんにお世話になっておりますが、こういう風に寄付額に重点を置くという事に成りましたので、本年度からは70%と30%その為に2640地区には2～3名の奨学生が増えてまいります。次年度継続の方は7名。それで2月に選考会が行ない新規採用が26名となります。合計33名が次年度お世話頂くことになると思います。それで本年度からはカウンセラー制度、これは米山奨学会の目玉でございますが、このカウンセラー制度をより充実して他の奨学制度にない心の通った、行き届いた奨学会にして行こうという方向にも変わってきております。まず本年度に入っているいろんな行事も2640地区で行っておりますが、まず初めに行いました事は、奨学生とクラブとがふれあいをもちにくいという地域がございます。奨学生とロータリアンのふれあいという事で訪問させて頂きました。これに付きましては非常に各クラブさんに感嘆を受けたと印象に残っております。また去年から始めた事でございますが、国際交流会という事で2640地区のインターアクトの生徒さんとのふれあいという事で昨年度は堺女子高校、本年度は羽衣学園高校で百数十名の生徒さんと米山奨学生が一同に介しまして伝統文化の交流などでふれあいを持って頂きました。これも大きな反響を呼んでおります。特に英語教室などではインド・中国・ネパールの方々などが英語を高校生に教えて頂いている。本当に良い国際交流が出来たように思います。留学生の方は非常に日本語も堪能でござ



いますが、英語も大変優秀な方が居られまして非常に意義があると思っております。それから留学生の採用募集でございますが、すでに10月15日に締め切っております、内訳を申しますと全国では1563名の申込みが参っております。そして2640地区の場合は地区内全大学に推薦権を持って頂きまして留学生に応じて割り当てております。その中から50名を枠として決めているのですが40数名の方が2月7日の選考試験にお越しになると思います。全国的に申しますと1563名の中から応募資格に合致しているかを12月末までに厳選致しまして、2月上旬に選考試験をして26名の新規採用を決めていく事になります。そして3月に入りまして次年度世話クラブ・カウンセラーをお願いし新しい採用者のオリエンテーション。米山奨学生的心得等を勉強して頂きます。そして次年度に入る訳です。米山奨学会は段々と優秀さというものに重きを置いてきています。その優秀さと申しますのは学業は勿論ではありませんが、文化を理解して頂く、或いはコミュニケーションが取れている事や地域交流・ボランティア活動にも参加頂く。皆様方のクラブに於きましても、こういうお手伝いをしてもらいたい、こういう行事に参加してほしい。或いは月間だけでなく年間を通して卓話等をして頂けたら・・・そしてやはり寄付を頂く以上、奨学生とロータリアンとのふれあいの機会をもって頂けたら一番結構な事だと思っております。先程申し上げましたが、後程時間が取れる様であれば奨学生の事、或いは奨学会にタイする希望なり感想なりご意見を頂戴したと思えます。そういう面から本日は忌憚のない意見を出して頂けたらと思います。それから米山奨学会からは別の事で御座いますが、水田ガバナ一年度の時に米山記念館というのがございます。その運営資金でございますが静岡県地区の方々がほとんどの資金を出して頂いていたのですが、新しい館ができ大変金銭的にも窮屈だという事でございまして、今年 来年 再来年と一人当たり100円を記念館の方へ支援するという事が全国的に決まっております。本年度にほとんどのクラブさんから もうすでに頂いておりますが、まだのクラブさんがありましたら宜しくお願いします。静岡県のクラブさんには大変お世話になっていましたので皆さん宜しくお願いします。いろいろと寄付の事ばかり申します

